

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503700), 法人名 (北海ケアサービス(株)), 事業所名 (グループホーム 北海ハウス二番館 ききょう), 所在地 (札幌市白石区北郷3条3丁目6-3), 自己評価作成日 (令和4年11月24日), 評価結果市町村受理日 (令和5年5月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

札幌新道に面した和風の格子戸が目印のグループホームです。中も木をふんだんに使い、明るく落ち着いた雰囲気です。皆が集まって過ごすフロアは、季節の飾りつけや皆で作成したカレンダーが掛けられて、季節の移り変わりが分かるように工夫しています。中庭には、春になると色とりどりのお花や野菜を植え、水やりをしながら外気浴をして、野菜の実がなれば収穫を楽しみながら過ごしています。夏には地域の方やご家族とバーベキューをします。冬にはフロアが幻のホッカイ居酒屋になります。調理の職員が居るので、スーパーに買い物に行き、自分たちの眼で見極めて買い物をするので、新鮮で旬な物が食卓に並びます。お刺身も出ます。全てホーム内で調理をするので、臭いや材料で今日のおかずを当てる入居者さんも居て、毎日の食事がとても楽しみになっています。コロナ禍で外食や外出の機会は少なくなりましたが、その分ホーム内でのレクリエーションを工夫して行っています。午前中は体操や脳トレ、午後からはカルタやトランプ、皆でクロスワードパズルで盛り上がりたり、カラオケ等も行って賑やかに過ごしています。認知症があっても、安全に安心して、楽しく暮らせる家を「笑顔で 明るく やさしく」を理念に掲げて、職員一同で目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 rows: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou detail 022 kihon=true&JigyosyoCd=0170503700-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年12月13日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、白石区北郷の札幌新道沿いに位置し、近隣にはコンビニ、小、中学校がある交通、生活に至便な立地である。職員は、一人ひとりの持てる力を大切に、家事仕事や趣味など、出来る限り今までの生活が継続できるよう支援している。コロナ禍により、地域交流や外出行事等に制限はあるが、中庭を利用した地域との懇親会の開催や、敷地での外気浴等、生活全般が楽しめる時となるよう、「笑顔で 明るく やさしく」という理念の実践に努めている。また、食事は豊富なメニューで栄養バランスも良く、皆で一緒に作る家庭料理は利用者的好评で、食の面からも健やかな暮らしを支えている。コロナ禍における利用者や家族の繋がりが支援については、従来からのホーム便りの他、電話の頻度を上げ、面会方法の充実も職員間で検討しながら、生活状況や受診結果、食の楽しみ等、多様な情報発信に努めている。また、体操や脳トレ、カルタ、パズル等の体力、能力維持への取り組みも尽力されており、家族からも高い満足度を得ている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、職員全体で共有している。	事業所理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。介護姿勢、理念の達成度についてフロア会議の場で検証、協議しながら、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍という事もあり、地域の行事もなく、買い物にもなかなか出ずらくなってしまっている。かろうじて理髪店の利用は継続しているのと、中庭での懇親会は開催できている。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、中庭での懇親会での事業所の近況の周知等、出来ることから関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大きな取り組みはしていないが、ご近所の方との何気ない会話で、認知症の理解や支援の方法を聞かれたり、話したりしている。また、推進会議等で認知症の実態を話したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の日頃の様子や取り組み、ヒヤリハットの事例報告、行事の様子、職員の異動などを報告し、話し合いや意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	現在は書面での開催としているが、通例では家族、町内会代表、行政が参加し、定例で開催している。会議では、運営状況や現状の課題を挙げ、委員からの意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の担当者と連絡を密に取り、実情や取り組みを伝えたり、アドバイスをもらったりしながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への協力や運営状況、事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化委員会を開き、そこで議論した内容を各フロアへ持ち帰り、フロア会議へ落とし込み、職員全員で情報共有を図っている。玄関の施錠に関しては、交通量の多い大きな道路に面している為、入居時にご家族に説明して了承を得ている。	身体拘束適正化委員会を設置し、定例で開催、フロア会議の場で内容について職員に周知している。利用者の現状の確認と定期的に研修の機会を作り、禁止となる具体的な行為等について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は外部研修に参加できず、社内研修のみになっている。常に更衣や入浴時に全身のチェックを行い、痣の確認等を行い、職員もストレスをためない様配慮しながら、決して見過ごされる事がないよう注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の判断で、自立支援事業や成年後見人制度を、必要に応じて関係者と話し合いながら活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、十分な説明を行って理解と納得を得ている。今回は水道光熱費の値上げをせざるを得なく、同意書を頂いた。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は直接職員に要望を伝えている。ご家族とはメールを利用して相談や要望を確認させて頂いて、それらを運営に反映させるよう努めている。	利用者一人ひとりの日常や、行事、病気の状態等をお便りを作成し、家族に送付している。また、面会時や電話・メールで家族の要望を聞き取るよう配慮し、出された意見は職員間で論議、検討しながらサービス向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は、フロア毎に検討して全員で決めている。管理者が判断できない事は、法人役職者に相談して意見を求める等して運営に反映させている。	フロア会議や日々の申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が面談を行い、個別に意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員個々の勤務状況や、努力を把握して代表者に伝え、各自が向上心を持って働ける様に、職場環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍になり、なかなか外部の研修に参加することが難しくなっている。法人内ではリーダー・サブリーダーの指導のもと、働きながら身につけていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内での管理者は定期的に交流する機会はあるが、コロナ禍になってからは他同業者との交流機会が無くなってしまった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴し、様子も観察しながら不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、家族が困っている事、不安や要望を確認しながら信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今必要な支援を見極めて、サービスを開始できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を共有・大切にしながら、共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、何かあれば連絡を取りながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中でも、姪っ子さんの結婚式に出席する準備を一緒にしたり、馴染みの床屋さんには行けるように等、出来るだけ馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。コロナ禍であるが、感染防止に留意しながら、柔軟な対応で関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、毎日の様に企画するレクリエーション等で、利用者同士の交流が活発に行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を把握する様努めている。それを踏まえて本人にとってどうするのが良いかスタッフ間で検討している。	個々の意向や希望の聞き取りに注力し、本人本位の生活となるよう支援している。家族からも情報を得て、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等を把握し、今までと大きく環境が変わってしまわない様配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの過ごし方や、心身の状態、有する力等、日々の変化を見逃さない様、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者の意見やアイデアを聞きながら、本人がより良く暮らす為の検討を繰り返し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者同士の間関係、居室以外での居場所、役割や楽しみ作りを基本に日々の職員の気付きと合わせ、短期目標を設定している。本人と家族、医療機関の意見を踏まえて、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等を個々に記録し、職員間で情報を共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて、既存のサービスだけではなく、柔軟な支援や対応が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の暮らしを支えている地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしを楽しめる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科は協力医療機関の往診があるが、他に希望があれば、出来るだけ治うように努めている。家族の対応が難しい時は職員で対応して、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関との連携があり、体調面・支援方法について職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で情報を共有し、何かいつもと違う様子があれば、協力医療機関の看護師に電話で相談し医師の指示が受けられる体制になっている為、入居者は適切な受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に病院関係者とは情報の交換や相談を行い、入退院がスムーズに行えるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重篤化した場合の対応を説明して、納得して頂いている。その時になったら、ご家族・病院と話し合いをしながら、方針を決めている。看取りについては、まだ体制が整っておらず取り組めていない。	重度化や終末期に於ける対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応が行えるように努めている。管理者は24時間対応できるように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施して、全職員が慌てず安全に避難誘導できるように努めている。地域との協力体制も築いている。	火災、自然災害を想定した防火訓練を定例で実施している。地域町内会、法人の他サービス事業所との協力体制、役割も含め、話し合いを行い、非常食等の備蓄も確認しながら、不意の災害に備えている。	自然災害に関する避難訓練内容のさらなる充実と、家族、関係者への避難場所の周知を検討している。計画の進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をする様気を付けている。	職員は、人格の尊重・個別性の確保は介護業務にとって極めて基本的事項として受け止め、家族対応を含めて、利用者個々の人格を損ねることの無いよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人が思いや希望を伝えられるような配慮をしている。好みの物を選んだり、対象を絞ったりしながら、自己決定が出来るよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが出来るよう、その日の体調もみながら希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は好みの物が着れる様、理美容も希望を伝えたり、お化粧品の選択、ウィックの着用等、その人らしいおしゃれの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を考慮してメニューを決め、出来る事は一緒にしながら、食事の準備や片づけを行っている。全て手作りの為、臭いや材料で今日のおかずを当てたり、キッチン覗きに來たり、食事を楽しみにしている。	食事は一日の生活にとって最も楽しいひと時と捉え、楽しく、喜び、味わいある食事となるよう留意している。後片付けなどもお願いして、共に楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・夕の食事はもとより、おやつも個々の量やバランスを考慮して対応している。食事・水分の記録を取り、必要量が確保出来ているかを確認しながら支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師や衛生士とも連携して、毎食後それぞれの力や状態に応じた口腔ケアを行い、口腔内の保清に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のリズムを把握し、時間や様子をみながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄が出来る様に取り組んでいる。	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。排泄時の自尊心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は雑穀米にし、なるべく多くの食材を使い、野菜を多く摂るようにメニューも工夫している。運動の働きかけや、水分量の確保等を行いながら、医師とも連携して便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤を入れたり、好みのお湯の温度で入浴できる様に対応している。職員の都合上夜間での入浴は難しいが、個々の希望やタイミングに合わせて、気持ちよく入浴できる様支援している。	時間帯や湯温、入浴回数等、利用者の希望に応じて、快適な入浴となるよう支援している。同性介助の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣や、その日の体調、その時々状況に応じて休んだり、安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの病気を理解したうえで薬の目的や副作用を確認し、複数の職員で確認しあいながら、誤薬や飲み忘れの防止をしている。飲み込みの悪い方は粉碎したり、ゼリーを使う等の工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や得意な事を活かして役割を分担している。それぞれの好みの物や楽しいことを把握して、日々の生活に取り入れたり、気分転換が出来る様な取組を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中でも出来るだけ安全に安心して、希望があれば、デイケアや散髪・外食等、日常的に外出できる様に支援している。普段はなかなか行けない場所でも、本人の希望があれば、ご家族と協力して、出掛けられる様に支援している。	通例では個別に声掛けし、散歩や買い物等、気軽に外出が出来るよう支援している。コロナ禍であるが閉じこもることのないよう、感染防止に留意しながら、外気浴等、心身の状態維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持する大切さは理解しているが、あちこちに隠して結局はなくなってしまったり、物盗られ妄想で不穏になる為、現在は所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおり、履歴で掛け直しをしたり、充電の支援をしている。友人と手紙や年賀状のやり取りをしている方もいて支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、程よい明るさや温度になるよう配慮している。皆が集まるフロアは、時間を掛けて作成した手作りのカレンダーや、季節と好きな動物を組み合わせた飾りつけ等をして、季節を感じながら、楽しく過ごせる様な工夫をしている。	利用者と共に作る生活環境として、各フロアの共有スペースは四季を感じる飾り付けや行事の写真が掲示されている。季節に合わせて模様替えが行われ、温・湿度や換気に留意された居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間であっても、独りで居たい方には積極的に関わる事はせず、そっと見守り、気の合った方同士はおしゃべりしたり、ゲームやトランプをしたり、それぞれが好きなように過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、家族の写真や本人の使い慣れた好みの物を置き、落ち着いて過ごせる様に配慮している。また、危険を回避出来る様な家具の配置を工夫し、ベッドが逆に危険な方には和床での対応等もしている。	居室には家族の協力を得ながら、昔馴染みの家具や小物・写真等が持ち込まれており、自分の部屋として安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札・飾りをつけて目印にし、良く使うトイレには案内板を付ける等して迷いが少なくなるよう工夫をしている。共同で使う洗面所の棚やかご、下駄箱にも名前をつける等して自立した生活が出来るよう配慮している。		